

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2014

4月

No.106



ほんたに
一宮町 本谷

おかざき
岡崎 ヤスノさん(91歳)

かなで
○奏くん(10歳)

りゅうのすけ
○隆之介くん(3歳)

さち
○紗空ちゃん(9ヶ月)

おかざき しげたか みき
岡崎 繁隆さん・三紀さん

■長男・二男・長女

ひ孫と
いっしょ

シリーズ 105

特集 P2・3

平成26年度
事業計画と予算

社協合併10年目

安心して暮らせる ふくしのまちづくりをさらに

平成26年度
事業計画と予算

社協合併10年目 安心して暮らせる ふくしのまちづくりをさらに



今年度は福祉委員やふれあいサロンのボランティアリーダーなどを対象とした研修会を計画的に開催します
写真は「宮支部ふれあい活動連絡会の様子」
(H25・11・9「宮保健福祉センター」)

宍粟市社会福祉協議会では、3月27日(木)に開催した第24回評議員会において、平成26年度事業計画ならびに予算を可決しました。
今月号では、平成26年度の基本方針と重点事業、資金収支予算書をお知らせします。

基本方針

- 「第2次地域福祉推進計画(つながりふくしプラン)」の第4年次の計画を着実に進めながら、平成28年度からの次期地域福祉推進計画の策定準備を進めます。
- 社協合併10年目という時期にあたり、支部機能を維持・強化しながら、4つの課を設置し、業務の効率化と質的向上を目指した機構改革を行います。
- 平成27年度に実施される「生活困窮者自立支援法」の施行や介護保険制度の改革などを踏まえ、引き続き生活支援と地域支援を合わせた総合的な地域福祉の推進をめざします。
- 介護保険事業や障がい者自立支援事業については、効率化とコストダウンを意識し、経営の黒字化を図り、健全な事業運営をめざします。

重点事業

1 自治会域での福祉の つながりづくりのために

- 「小地域福祉活動モデル地区指定事業」第2期モデル地区(6地区)の指定
- 自治会福祉連絡会を中心とした「見守りネットワーク活動」の推進
- 福祉委員や福祉活動リーダーを対象とした研修会の計画的実施

2 宍粟市全域での福祉の つながりづくりのために

- 退職世代を対象とした「ボランティア入門講座」の開催
- 障がい者の生活を支援するボランティアの養成(視覚障がい者のためのガイドヘルプボランティア等)
- 「災害ボランティア養成講座」の開催など災害に備えた取り組みの推進

3 地域での暮らしを 支えるためのつながり づくりのために

- 市地域包括支援センター等との連携による「福祉サービス利用援助事業」のさらなる推進
- 住民同士が支え合う「近所ボランティア活動」の推進
- 限界集落化していく地域の高齢者を対象とした買い物送迎バス「お出かけ号」の運行

4 社会福祉協議会の 基盤強化のために

- 理事と職員が連携して行う「役職員業務研究会」の継続実施
- 「支部地域福祉推進委員会」の活性化と「支部活動推進活動計画」の策定
- 支部体制と4課の新設による業務の効率化の推進(9頁参照)

平成26年度社協予算 4億4,009万4,000円

◆平成26年度資金収支予算書

(単位:千円)

勘定科目		本年度予算額	摘 要
事業活動による収支 ※1	収入	会費収入	13,820 一般会費 11,060 千円、賛助会費 2,760 千円
		寄附金収入	14,800 善意銀行預託金
		経常経費補助金収入	89,093 市、県補助金収入
		受託金収入	27,352 市から委託された介護予防事業、出会いサポートセンター事業等の受託金収入
		貸付事業収入	350 低所得の方への小口貸付償還金
		事業収入	24,176 参加費収入、利用料収入、介護用品斡旋収入等
		共同募金配分金収入	11,908 平成 25 年度共同募金による配分金 7,783 千円 平成 26 年度歳末たすけあい募金による配分金 4,125 千円
		負担金収入	1,225 老人クラブ連合会、福祉団体からの負担金
		介護保険事業収入	233,937 ケアマネ 4 事業所、訪問介護 2 事業所 デイサービス 1 事業所、訪問入浴サービス 1 事業所
		障害福祉サービス等事業収入	16,586 相談支援センターゆめぶらん 障がい者訪問介護 2 事業所
		受取利息配当金収入	560 預金利息
		その他の収入	72 その他の収入
		事業活動収入計 (1)	433,879
	支出	人件費支出	307,628 役員報酬、職員人件費
		事業費支出	63,709 社協事業全般に関する事業費
		事務費支出	42,059 印刷製本費、通信運搬費、事務機器・車輛リース料、事務所賃借料、保険料、事務消耗品費等
		貸付事業支出	330 低所得の方への小口貸付金
		助成金支出	15,633 自治会福祉連絡会、ボランティアグループ等への助成金
		負担金支出	384 全社協・県社協負担金、その他事業の負担金
		利用者負担軽減額	178 低所得世帯に対する介護保険サービス等利用料軽減額
		事業活動支出計 (2)	429,921
	事業活動資金収支差額 (3)=(1) - (2)		3,958
施設整備等による収支 ※2	収入	施設整備等収入計 (4)	0
	支出	固定資産取得支出	216 デイサービス介護用ベッド購入
		施設整備等支出計 (5)	216
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4) - (5)		△ 216
その他の活動による収支 ※3	収入	積立資産取崩収入	6,215 職員退職手当基金取崩収入
		その他の活動収入計 (7)	6,215
	支出	積立資産支出	60 修繕、備品購入基金への積立
		その他の活動による支出	8,897 職員退職手当基金への積立
		その他の活動支出計 (8)	8,957
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7) - (8)		△ 2,742
	予備費支出 (10)		1,000 予備費
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)		0	平成 26 年度総収入予算額-総支出予算額=収支事業費
前期末支払資金残高 (12)		162,602	平成 25 年度分の繰越金
当期末支払資金残高 (11)+(12)		162,602	平成 26 年度末の資金残高予定額

新会計基準の「資金収支計算書」は、次の3つの区分で構成されています。

- ①事業活動による収支(※1) 社協が行う地域福祉事業や介護保険事業など経常的な事業活動による収支を管理する区分
- ②施設整備等による収支(※2) 固定資産(10万円以上の物品・備品や土地・建物等)の取得及び売却に係る収支を管理する区分
- ③その他の活動による収支(※3) 職員退職金や大型備品購入のための積立て及び取崩し、投資有価証券の購入及び売却等の収支を管理する区分

○社協を含むすべての社会福祉法人は、平成27年度までに「社会福祉法人新会計基準」へ移行することが義務付けられています。
 ○社会福祉法人は、これまでその法人が行う事業内容により異なる会計ルールで会計処理を行ってきましたが、この「新会計基準」に移行することで、すべての社会福祉法人が同じ会計ルールで経理を行うことになり、経営状況がよりわかりやすくなります。
 ○穴栗市社協では、平成26年度からこの新会計基準へ移行した会計業務を行います。

※そのため、旧会計基準により作成した「前年度予算」との比較ができないことから、上表の「平成26年度資金収支予算書」には前年度予算額とその比較を記載しておりません。

本年度の事業計画書、予算書の詳細については、本会ホームページ、本部・各支部の窓口でご覧いただくことができます。ご遠慮なくお申し出ください。

やさしさ

90歳からでもできる体力づくり

老人クラブで『いきいき百歳体操』

3月20日(木)、山崎支部老人クラブ連合会の女性部が、宍粟防災センターで『身近なところでできる元気づくり』をテーマに研修会を開催し、83人が参加しました。

この日は、宍粟市地域包括支援センターの坂口美佐保健師を講師に、介護予防として全国的なブームになっている『いきいき百歳体操』に挑戦しました。

この体操は、DVDを見ながらゆっくり体を動かし週1〜2回のペースで続けることで、90歳を超えてからでも筋力アップの効果があります。

また、体操は3分とお手軽。その後、お茶や話もできるのでふれあいの場にもなります。

参加者からは「ええ運動になる。動きも簡単やし週に1回やったら続けられるかも」「何人か声かけて始めてみよかな」など、前向きな意見が多く聞かれました。



足におもりを付けて真剣に体操するみなさん
(宍粟防災センター)

詳しくは

お問合せ

宍粟市地域包括支援センター
Tel. 63-3101 まで

宍粟市でも、すでに4つの自治会がモデル的に取り組まれています。
最近、少し動くとすぐ疲れる、よくつまづく…そんなことが気になっている方は、ぜひ地域のみなさんとこの体操を始めてみませんか。
(山崎支部 森井裕矢)

い

百千家満元気げんき大作戦

薬師野ふれあい広場が完成

「元気な村づくりの拠点として稲木小屋を…」

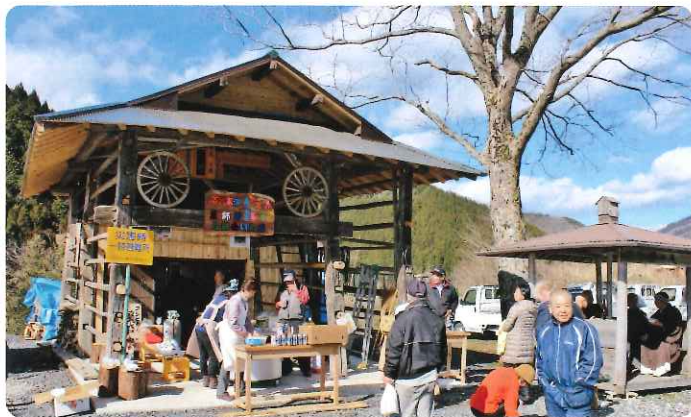
今回は、百千家満自治会が進めている村づくりについて紹介します。

3月22日(土)、百千家満薬師野ふれあい広場のお披露目会が行われ、約100人が会場を訪れました。

この広場は、他地区の住民から稲木小屋を譲り受けたもので、「しそつ元気げんき大作戦」の補助金などを活用し現在の場所に移築されました。

会場では、昔ながらの風情のある建物を、懐かしそうに眺めている姿が見られ、餅まきやおでんの振舞い、地元野菜の販売などがイベントに花を添えていました。

「自治会の役員をはじめ、大勢の協力で完成したふれあい広場を地域の活性化につなげていきたい」と、自治会長の福原祥雄さん。



元気な村づくりの拠点として「薬師野ふれあい広場」が完成

今後は、野菜や米の販売、ふれあい喫茶の開催など、住民同士の生きがいづくりや交流の場として活用されるほか、地元を離れた人たちがイベントに参加しやすいよう、広場を有効に活用していきたいとの話も伺いました。

始まったばかりの『百千家満元気げんき大作戦』。広場からたくさんの元気と笑顔が生まれることを期待しています。
(本部・一宮支部 波多野好則)

読者の感想より

本谷の「バイキング喫茶」とてもいいですね。こんな方法もあるんですね。私たちの地域でも考えてみたいです。(一宮町 女性)

こんにちは!
社協です!!

は
が



「法事やお葬式には、こうやって近所で助け合ったね」とみなさん。今はボランティアが自治会の大切なつながりの1つです

水谷では、あじさいグループが老人クラブの会員を招く食事会が毎年恒例となっており、今年は会員の8割以上にある

特別なことはできないけど…

水谷 ～食事会で安心づくり～

「数足りてる？」
「煮物はどこに詰めようか？」…3月8日（土）、ボランティアグループが食事会をされると聞き、水谷公民館を訪ねると、お弁当作りの真っ最中。
この会を主催するボランティア「あじさいグループ」は、日頃から社協の配食サービスの調理にも参加くださるとあって、手際よく調理が進んでいきます。

「高齢になると、いろんな不安も出てくる。そんな時に、福祉など色々な方が支えて下さるので安心できます」と老人クラブの大段幸成会長。
食事会やふれあい喫茶など、みんなが集まる「場」をつくるのが、安心づくりにもつながっています。

（波賀支部 草田希望）



「よお来てくれちゃったね」「美味しかったわ」
食事を囲んで会話がはずみます

ち
くさ

みんなで盛り上げよう

下河野わいわい喫茶

3月9日（日）、下河野公民館でふれあい喫茶が開催され、30人の参加がありました。

下河野では、チラシの作成や配布、送迎にいたるまで、年6回のふれあい喫茶の運営をボランティアグループ『花水木』が担っています。

「歩いてはよう来んけど、迎えに来てくれるのでありがたい」「喫茶があるときは、誘い合うて毎回参加するんやで」などと参加者の声。

この日はボランティアとして森下明美さん（中島）を招き、健康体操が行なわれました。

おばあちゃんの家には山崎や姫路から遊びに来ていたお孫さんたちも一緒に喫茶とおしゃべりを楽しんだ後、じゃんけんゲームや体操に参加しました。

体操のお手本をする子



ボールを落とさないように隣のひとへ渡してね…
（下河野公民館）

や、その子をほほ笑ましく見守る参加者皆さんでわいわい喫茶を盛り上げています。
これからもみんなでアイデアを出し合い、ふれあい喫茶を盛り上げてくださーいね。

（千種支部 小原志のぶ）



手づくりのチラシ

初めて食べたけど、
うまかったわ～



またこんな機会を作ってな！

3月6日(木) メイプル福祉センター

波賀ボランティア連絡会が研修会を行い、配食サービスのお弁当調理体験を行いました。

調理の後は、お弁当を利用者さんへお届けいただいている配食ボランティア「にこにこクラブ」のみなさんと一緒にお弁当を囲んで意見交換。

調理をした方からの「配る時には、利用される方に味の感想を聞かれますか？」との質問に、「元気ですか？とは話すけど、味のことはなあ…今日は弁当も食べたし、感想聞いてみよかな」とにこにこクラブのみなさん。

お弁当を囲んで、作る人・届ける人が気持ちを共有することができました。

(波賀支部 草田希望)

はっけよーい！



みんなが見守る中、腕相撲で待ったなし！

3月24日(月) はりま自立の家

大相撲大阪場所が千秋楽を迎えた翌日、玉ノ井部屋の東里、東浪の両力士が宍粟市内の障がい者施設、保育園を訪問しました。

はりま自立の家では約50名の利用者がお出迎えし、いろいろな質問や腕相撲などで楽しい時間を過ごしました。

「生の力士に会えてうれしい。腕の感触がすごかった。」と腕相撲をした岸本博貴さんが興奮して話される姿がとても印象的でした。

利用者の方のみなさんのイキイキした笑顔とたくさんの「ありがとう」「また来てね」の言葉が施設内に響き、楽しい交流となりました。

(本部・一宮支部 田中祥仁)

ボランティアセンター日誌



忘れない想い



黙祷後、NHKの復興支援ソング「花は咲く」を合唱

宍粟から追悼 ～3.11東北へ届け～

ボランティア
約60名が追悼

3月11日(火) 一宮保健福祉センター中庭

東日本大震災から3年となるこの日、一宮ボランティア連絡協議会では『宍粟から東北へ想いを届けよう』と震災で亡くなられた方々を追悼しました。

ペットボトルで作った450本の灯ろうを3.11の文字に型どり、震災発生時刻となる午後2時46分に黙祷をささげました。

灯ろうには「絆」「愛」「勇気」など様々なメッセージが書き込まれ、同協議会会長の進藤弘子さんは「自分たちにできることは少ないですが、震災と津波災害を風化させないためにも今後も続けていきたい」と話されました。

(本部・一宮支部 田中祥仁)